

皮膚科医で乳がん検診の受診を  
呼び掛けるボランティアグループ代表

なかざわ ゆり  
中沢 有里さん (39)



ひと

乳がんになった自身の経験から、1年前に乳がん啓発の活動グループ「ピンククロス大分」を発足させた。全国で啓発を強化する乳がん月間の今月、医師仲間や友人らと発足後初めてイベントを開催し、100人以上の成人女性が訪れた。「検診の大切さに対する多くの意見を頂き、開催してよかった」と感じている。乳がんが分かったのは33歳の時。美容皮膚科の最新医療

## 自分の体 いたわって

を学ぶため、愛知県の母校と大分を往来する多忙な日々が続いていた。検診を受けたのは、自分で胸のしこりに気付いてから数カ月後。結果、左の乳房を全摘出した。「闘病中は自分のことで精いっぱいだった。自分を大切にしなければ家族も大切にできないと思った」と振り返る。

大分市出身。市内で皮膚科医院を開業する父の背中を見て医師の道へ。発病後は家族がいる地元だけを働く場とし、父と一緒に地域医療を支えている。「患者が病気を学ぶための選択肢を与えられる医師になりたい。それは自分を大切にしてほしいという思いにつながっている」と熱い。推理小説を愛読。夫は県外で単身赴任中。患者の心が分かる医者になりたいと言い始めた長男、両親と暮らす。

(外池咲子)